

平成30年度 第1回宮城県産業教育審議会会議録

宮城県教育委員会

- 1 日 時 平成30年7月11日(水)
午前10時から午後12時30分まで
- 2 会 場 宮城県農業高等学校 会議室
名取市高館吉田字吉合66番地
- 3 次 第
 - 1 開会
 - 2 開会の挨拶
宮城県教育委員会教育長
宮城県農業高等学校長
 - 3 視察
 - 4 議事
 - (1) 審議
 - イ 農業高校の目指すべき方向性について
 - (イ) 農業高校の取組状況について
 - (ロ) 意見交換
 - (2) 連絡
 - イ その他の専門高校・専門学科の取組状況
 - ロ 専門学科の進路状況
 - ハ その他
 - 5 閉会

【資料一覧】

- 資料1-1 産業教育振興法(抜粋)
- 資料1-2 産業教育審議会条例
- 資料1-3 情報公開条例(抜粋)
- 資料2 委員名簿・座席表
- 資料3 平成28年度宮城県産業教育審議会提言
「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」(抜粋)
- 資料4 その他の専門高校・専門学科の取組状況(新聞記事から)
- 資料5-1 平成30年3月高等学校卒業者の就職内定状況(5月末現在)について
- 資料5-2 専門学科の進路状況
- 資料5-3 専門学科別配置図
- 資料5-4 高校及び・学科の新設・拡充の取組

平成30年度宮城県産業教育審議会

進行

事務局 伊藤裕之

委員の皆様、本日は御多用のところ、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、本審議会は情報公開条例19条に基づき、公開となりますので、よろしくお願いたします。

ここで、本日の資料並びに日程の説明をさせていただきます。本日の次第が表紙となった冊子、出席者名簿と座席表（両面）となっております。

また、別紙資料としてみやぎ産業教育フェアのチラシ、封筒に入っておりますのが農業高校さんからの資料でございます。

本日の日程は、配付しております次第のとおりに進めて参りたいと思っております。終了時刻は12時30分を予定しておりますのでよろしくお願いたします。

1 開会

進行

事務局 伊藤裕之

それでは、只今から、平成30年度第1回宮城県産業教育審議会を開催いたします。

始めに、開会の挨拶を申し上げます。

2 開会の挨拶

松本文弘 教育次長

教育次長の松本でございます。高橋教育長が所用により出席が叶いませんでしたので、代わって御挨拶を申し上げたいと思っております。

本日は御多用のところ、宮城県産業教育審議会に御出席いただき誠にありがとうございます。

また、委員の皆様には、日頃から、本県の産業教育の充実・発展のために御支援・御協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

今後の日本や世界の産業については、2020年のオリンピック後に日本が不景気になるとか、2035年頃にはAIやロボットに多くの職業が奪われるとか、少し恐ろしい将来予測もされておりますが、現時点における本県の高等学校の産業教育につきましては、各学校の特色を生かし、地域や産業界と連携しながら、将来のスペシャリストとしての基礎・基本を習得して、地域の産業を支える人材を育成しているところであります。

また、産業教育フェアについては、昨年も、多くの県民の方々にご来場いただき、専門高校の学習成果を広くアピールすることができました。

さて、本審議会からは、平成28年度末に「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」として提言を頂戴し、昨年度はこの提言を受けた各校の新たな取組に関する成果と課題について御意見を頂戴いたしました。

今年度は、特に震災被害の大きかった農業高校と水産高校が再建を果たしたことから、新しい校舎を御視察いただきますとともに、宮城の基幹産業である、農業と水産業の人材育成を目指す両校が進むべき方向性や、他の高校の取組への御意見を頂戴したいと考えております。

本日はその1回目として、震災からの移転・再建がなりました宮城県農業高校の施設を視察し、新しい設備を活用した取組を御覧いただきます。

また、各専門学科の進路状況について、各委員の専門的見地から御意見を頂戴して、今後の専門学科の教育の充実に役立てていきたいと考えております。

結びに、審議会委員の皆様には、今後とも本県の産業教育充実のために、御支援を賜りますことをお願い申し上げまして御挨拶いたします。本日はよろしくお願いたします。

進行
事務局 伊藤裕之

続きまして、本日会場となります宮城県農業高等学校 後藤 武徳 校長が挨拶を申し上げます。

挨拶
後藤武徳 校長

おはようございます。宮城県農業高校の校長の後藤と申します。よろしくお願ひします。始めに、私はこの3月まで柴田農林高校におり、4月に農業高校の方に異動しました。

平成23年の震災の年、加美農業高校から4月に宮農に赴任したとき、震災の津波被害に遭って、校舎が壊滅している状態でしたので、そこから3校に分かれての授業となりました。また、この3月までお世話になりました、農業大学のグラウンドの仮設の校舎のプレハブ校舎の設置、施設の充実のために2年間あたっていました。その後、5年間を経てまた戻ってきたということになります。震災時に新しい学校を作るときはこういう学校がいいな、あるいは、こういう風なところに地権者の方々の協力を得てきたらいいなど、大きな構想をつくったことまでは記憶しています。この4月から最新の設備を備えた学校になりましたが、やはり、そこに生徒も教員も「心」とか「志」がないと、それはただの立派な建物であって、そこには何も生まれられないということになります。農業高校ですから、3月の時点では圃場には何もなく、多くの先生方が、これからどうなるのかと不安を抱えながらやってきましたが、当然のように種を播き水をやると作物は育ち、そうすると先生たちの気持ちはまた違う第一歩を踏み出していきます。生徒も同じような心を持って、4月、5月、6月と、どんどん生徒の志の開花が見られるようになったと思っています。ここで、次に宮農が目指すビジョンとか方向性というものを、本校を訪れる多くの方々の御意見や提言をいただきながら、地域の皆様に愛される宮城県農業高校となるように今後もがんばっていきたいと思いますので、本日も御指導の程、どうぞよろしくお願ひします。

進行
事務局 伊藤裕之

続きまして、本日御出席の皆様につきまして、お手元の名簿順に御紹介させていただきます。

仙台商工会議所参与 本審議会の副会長 間庭 洋 委員でございます。
東北大学大学院教授 本審議会の会長 伊藤 房雄 委員でございます。
宮城教育大学教授 本岡 愛実 委員でございます。
宮城県経済商工観光部 次長 高橋 裕喜 委員でございます。
宮城県高等学校長協会より 宮城県富谷高等学校長 栗野 琴絵 委員でございます。

なお、及川 公一 委員、引地 智恵 委員、竹中 智夫 委員、小野 秀悦 委員、菅原 一博 委員、平本 福子 委員、塩村 公子 委員 は欠席となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、本日の会場となります宮城県農業高校の職員を御紹介いたします。

先程御挨拶をいただきました、後藤 武徳 校長でございます。
岩城 幸喜 教頭でございます。
阿部 幸弘 教頭でございます。
佐藤 淳 主幹教諭でございます。
嘉藤 弘晃 主幹教諭でございます。

橋浦 勉 農場長 でございます。

続きまして、教育委員会の主な職員を御紹介いたします。

先ほど御挨拶いたしました、

宮城県教育庁 教育次長 松本 文弘 でございます。

宮城県教育庁 高校教育課 課長 伊藤 俊 でございます。

それでは視察に入りますが、教育次長は別の公務により退席いたします。

では、施設見学を行います。ここからの御案内を、農業高校の岩城教頭をお願いいたします。

説明
岩城幸喜 教頭

それでは説明させていただきます。まずは、教室を通りまして、情報、バ
イオ、そして体育館、そこから戻ってきて家庭科棟の視察をしていただきま
して、玄関から出まして、農場の方へ向かいますが、途中で寮を見ていただ
きます。それから、バスで水田、温室、農場施設、果樹園を通りまして、畜
産の施設を見ていただきます。限られた時間ですがよろしく願いいたし
ます。

3 視察

※施設見学

普通教室、特別教室、寮、農場、水田、温室、農場施設、果樹園、畜
産などを視察（約1時間10分間）

進行
事務局 伊藤裕之

それでは、これより審議に入りますが、資料1-2の産業教育審議会規則
第5条により、会長が議長を務めることになっておりますので、伊藤会長に
議長をお願いいたします。

4 議事（1）審議
伊藤房雄 会長

それでは、暫時議長を務めます。皆さんの御協力をお願いします。
最初に本日の進め方について、事務局から説明をお願いします。

事務局 吉田浩二

事務局の吉田です。よろしく願いいたします。昨年度の審議会では、5
ページにあります、平成28年度末に出された審議会答申について、各校へ
の周知及び新たな取組の状況・課題についての調査を行い、内容を報告した
上で御意見をいただきました。

今回の審議会は、6ページの『震災被害の大きい農業高校・水産高校につ
いて』の提言の中から、「農業高校の目指すべき方向性」について取り上げ
させていただきます。

本日の進め方としましては、農業高校の岩城教頭より、新しい施設・設備
での取組状況等を御説明いただき、委員の皆様から御質問や御意見を頂戴す
るという形をとりたいと思います。その後、その他の専門学科・専門高校に
ついて、事務局より報告させていただきます。限られた時間ではありませ
が、よろしく願いいたします。

伊藤房雄 会長

只今事務局から説明のあったとおり進めていきたいと思いますが、よろし
いでしょうか。

では最初に、農業高校の取組状況についてです。農業高校、岩城教頭願

岩城幸喜 教頭

いたします。

それでは私の方から説明させていただきます。只今、校舎、そして農場の方を見学していただきましたが、仮設から新校舎、新しい設備に代わり、生徒も大変喜んでおりますし、とても丁寧に使っております。また、後ろにある中庭では、昼休みになると、使っていかどうかと、考えながら、生徒は楽しんで使っているようです。この前は、吹奏楽部の県大会に向けての、ショートコンサートの機会があり、多くの生徒・先生方が鑑賞し、和気あいあいというか、新しい校舎になったことを実感したところでございました。

私のほうからは、お手元にある資料、学校案内、学校要覧を使いながら簡単に説明させていただきたいと思います。

本校は、5学科6クラス240名という定員の中で、学校案内の中にありますとおり、「自啓」という、自らの力で自らの道を切りひらくという校訓のもと、農業科、園芸科、農業機械科、食品化学科、生活科それぞれの取り組みが掲げられています。まず、本校の特徴としまして、寮教育がございました。短い期間ですけれども、義務入寮として1ヶ月間の入寮があります。寮生活で、心身ともに健康でたくましい生徒を育てるところでございました。また、農業科は水田と畜産中心に、多くの生徒が実際のものに触る、体験するというのが一番はっきりしているところです。ヤンマーさんとの企業連携であったり、地域にある小学校もしくは支援校との連携を行っております。また、昨年度は高館小学校さんとの連携ということで、農業科、生活科で連携を行いました。農業機械科では、千葉大学の植物工場との交流もあります。食品化学科ではトマトの栽培から生産・加工という取り組みも行ってきました。新しい施設に来て一番最初に作ったのがジャム類です。本来、イチゴの栽培が終わる5月中旬から下旬にかけて作るのですが、今年度は営業許可などの関係で遅れてしまいましたので、マーマレードを作りました。その後菓子パン、焼肉のたれなどを作製予定です。最後に生活科ですが、仙台白菜の栽培を通して地域の資源を活用するなど、各学科とも様々取り組んできました。

要覧には書いてありませんが、「活気と品位のある」、要するに運動部で活気、文化部で品位のある学校生活を充実したものに、という取組を目指しております。

要覧9ページ2、教育目標にあるとおり、「自然を愛し、心身ともに健康でたくましい生徒を育てること」ということを目標に、農業に関する知識と技術・技能を習得させ、豊かな人格の形成と力の育成を図り、将来地域社会を担う社会人の育成を目指し取り組んでいるところです。学校スローガンとして、「地域に愛され、地域を愛し、信頼される宮農」というスローガンのもと、現在取り組んでいるところです。簡単ではありますが取組状況については以上です。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。先程見学した施設を活用した取組等について説明をいただきました。これらについて皆様方から御質問、御意見、御感想等があればお願いします。

皆さんが考えている間に、私の方からお話します。一通り見させていただいて、素晴らしい環境と思いました。その中で設計の段階と、実際に使うようになってのズレというか、使い始めるとこんなはずではないのにと感じることもあると思うのですが、それにどのように対処されているのかお聞きしたいと思います。もう一つは、コンピュータ室をみていると、生徒一人一人に一台ずつ与えていて、それなりにコストがかかると思います。今のパソコンは4～5年で更新、併せてソフトも次から次とバージョンアップしており、それらの経費もバカにならないと思います。経費がかからない方法を検討してはどうかという、質問一つとコメント一つです。

後藤武徳 校長

やはり、先生がおっしゃったように、使ってみると全然違うというのが多々あります。故障であるとか不具合であれば1年間はいろいろなメンテナンスで代えることができます。でも、多くのことで不具合が起こってくると、先生方はミスするのが怖くなってしまいます。大きい損失になるかもしれないので、この機械は動かさないでおきましたという先生が出てくる。でも、やってみないとわからないことがあるから、まずは動かしてみましよう、とりあえず一步前進してみてくださいということで、4月からやっています。初期動作がうまくいかないものもありますが、宮農祭に向けて、夏休みいっぱいをかけて、動作確認をしているところです。

もう一つは、県の方でSWANⅢに移行しているところですが、これに伴って無線LANなどのインターネット機能が使いやすくなり、そうするとコストパフォーマンスもどんどん改善されて、更新されていくのではないかと思います。最新の校舎でまだこのシステムなのかと思われてしまうかもしれませんが、少しずつ最新なものを取り入れていきたいと思います。

本図愛実 委員

本日はどうもありがとうございました。生徒さんたちがすごく生き生きとしていたのが素晴らしいと感じました。先生方の日々の頑張りを生徒さんたちは感じているのかなと感じました。本日もたくさん資料を準備していただきまして、宮農のプランを示していただいたのが大変わかりやすく、簡潔でいいと感じました。その中で10番目に地域防災を推進するとあるんですけど、これをぜひお願いしたいなというところがございます。新しい校舎の中で、まずは生徒の教育の充実ですが、そこが少し見えてきたところで、地域防災推進というところをもっときちんと充実させて欲しいと思います。おそらく2つあって、一つは地域の中で防災を推進していくという面と、地域の防災の中でもまずもって、ここで事故が起こったとき、そして起こさないように、それから自然災害が起きたときどうするかという、2つの面でのように考えているかということをお話したい。

後藤武徳 校長

この場所は、一度すごい災害に見舞われているところでして、それは大雨で垂水ダムが満水状態になって、急遽放水をしたときに、仙台空港近辺まで水浸しになったことがあります。それで、この場所に移ってきたときにそれを懸念される方はすごく多くて、私もどのようにして対処したらいいのかなと思っていたんですが、そのときにですね、名取北高校が気象庁と連携して、気象図の見方とかあるいはそれに伴う防災情報の集積の仕方、あるいは生徒に対するいろんな教育を率先してやっておられました。宮農も必ずしも

安全ではない場所だということもあり、先日名取北高の校長先生から、我々のノウハウを伝えたいというお話がありました。そこで、明日の午後、名取北高校の校長先生と防災主任の先生がお見えになるので、それをもとにして地域の防災計画を策定していきたい。校内については、避難経路、放送設備等を名取市の方から指導を受けていきたいと思えます。

伊藤房雄 会長

入学生の様子はのでしょうか。

後藤武徳 校長

133年の歴史がある宮農の中で今年初めて男子生徒より女子生徒の数が上回りました。今は畜産女子とか、農業女子とか言われるように、圃場で実習している姿を見てもらえばわかるのですが、女子が圧倒的にイニシアチブをとっています。放課後の活動も、牛の世話はほとんどが女子で、「家で飼っているの？」と聞くと「家はマンションなんで」と返ってきます。でも、それを通して、北海道の大学に進学し、北海道で営農したいというように、未来のビジョンがはっきりしているのが女子です。男子に聞くと「考え中です」というような答えが返ってきます。それが、男子と女子で最も違うところです。700名の生徒がおりますが、600名はJRを利用しています。そのほとんどが仙台圏からの通学であり、必ずしも、家庭が農家ではないけれど、将来は食品関連か、地域の農業に関連した、生産ができる産業を希望している生徒が圧倒的に多いです。家が農家だからと運命的に宮農を選択したわけではなく、自分で選択してやってきましたという生徒が圧倒的に多くなっています。

間庭 洋 委員

以前、宮城工業さんの建築に女子生徒さんがものすごく増えたとき、今と同じような話を聞いたことを思い出しました。自分の意思で、将来を考えて選択したというのは、素晴らしいことであり、例えば将来、食品をベースとした加工業に従事したとしても、農業のことをわかっている方が社会に出て活躍するというのが、これからの女性に広がっていくのだと感じました。私は商工会議所所属ですが、すでにマーケットは女性が握っていますし、車のディーラーさんなどはまず奥様とお嬢様を接客する。実際に決めるのはお父さんなのですが、車の色、デザイン、その他を選ぶのは奥さんと娘である。お父さんは、娘に乗りたくないと言われると、その車は絶対に買わないようである。そのような話を思い出しましたが、農業・食品関係の未来は明るいなど強く感じました。本日はありがとうございました。

高橋裕喜 委員

私は経済観光商工部におりますが、学校現場については高校卒業以来でありましたが、今の学校には素晴らしいものがたくさんあるなど感想を持ちました。

現在は人手不足が課題となっております、うちの部では雇用関係の対策をいろいろとしております。過去3年間の就職実績を見ると幅広く進んでいるようですが、最近の高校生の職業観、実情、傾向がわかればもう少し教えていただきたい。

後藤武徳 校長

今の生徒たちは、キャリア教育をしっかりと受けているので、小中高と職業観をしっかりと持ってきています。高校3年間で完結できるものは何かを

追求すると、キャリア教育の最終形だということ、非常に力を入れています。キャリアアドバイザーの方との連携も強くした指導を行っております。高校を卒業して、仕事が自分に合わなかったという生徒はほとんどいないと考えます。ミスマッチは、応募前見学などで防ぐようにしています。少し時間がかかって、職業観が完成するのかもしれませんが、実践的なトレーニングを経て、自分がやってきた実習であるとか、得た資格を活かした職業は何かという、身の丈に合ったような職業選択をして卒業していく生徒が過半数だという風に思っています。

高橋裕喜 委員

ありがとうございました。一般的に高校を出て、3年で4割が離職するなど、早期離職が問題になっておりますが、宮農さんについてはそういうことはないのでしょうか。

後藤武徳 校長

だいぶ解消されてきているように思います。

栗野琴絵 委員

今日はありがとうございました。もっとゆっくり生徒の様子なども拝見したいなと欲張ってしまいました。私は、昨年度まで専門高校に勤務し、今年度から普通高校に異動しました。来年は本校もコース制の廃止などありますが、先ほど後藤校長先生の方から、職業観を持って入学してくる生徒が多いということを知って、正直うらやましいと思いました。例えば、牛舎の方にお邪魔した際、先生方の御指導の下、本当に丁寧に世話をしている姿、本日おいしくいただいたトマト、メロンとかも、子どもたちが本当に一生懸命になって育てているんだろうなと思いました。命に関わるというか、ものを育て、それが成長する様子を子どもたちが学ぶという過程を、最高の環境の中で行っているところに感激しました。専門高校も普通高校も見方によっては同じであり、入ってきた生徒に対しても一生懸命に学ばせるための仕掛けをしていかなければならないと感じました。今後いろいろと参考にさせていただきたいと感じました。ありがとうございました。

伊藤房雄 会長

それではこの辺で、農業高校の視察の内容について終了したいと思います。審議については以上とさせていただきます。

4 議事(2) 連絡

伊藤房雄 会長

次に、(2)連絡 イ その他の専門高校・専門学科の取組状況について事務局からお願いします。

事務局 伊藤裕之

12ページの資料4を御覧ください。この資料には、4月以降の、宮城県農業高校以外の農業高校や、その他の専門高校の取組を紹介した新聞記事です。御覧ください。

伊藤房雄 会長

それでは、各校の取組の一部ではありますが、事務局から資料が出されました。資料を見て、皆様からお気づきになった点や御意見等があればお願いします。

次に、(2)連絡 ロ 専門学科の進路状況について、事務局からお願いします。

事務局 佐々木範子

高校教育課キャリア教育班の佐々木と申します。

私からは、簡単ではありますが、平成30年3月新規高等学校卒業者の進路状況についてご説明いたします。資料の16ページを御覧ください。

3月末時点での内定率は98.8%と平成29年3月末の99%よりは若干下がりましたが、その後、5月末時点では99.5%となっており、依然、就職内定率が高い状況は続いております。

一番下の⑧宮城労働局発表の県内求人倍率が3.36ということで、求人数が多いことが一番の要因と思われます。1回目で受験した生徒の合格率が高く内定決定の時期が早いというのが、特徴であります。

真ん中より少し下の【概況】の②進路希望の割合状況を見ますと、進学希望が75.7%と依然進学傾向が強いことが分かります。

就職内定者については、80.4%が県内に就職しており、地元志向が強いことが分かります。この傾向も例年と同様に変化はありません。

また、⑥学科別内定率、⑦地域別内定率をご覧のとおりです。

17ページからは産業別、職業別の学科別就職希望者数と、就職内定者数になりますのでご覧ください。

平成31年3月卒業予定者の進路希望調査が来月から始まりますので、次の審議会では希望調査結果についてお知らせすることができるかと思います。以上になります。

伊藤房雄 会長

只今事務局から報告がありました、専門学科の進路状況について、委員の皆様から質問がありましたらお願いいたします。

私からですが、今すぐというわけではないのですが、離職に関するデータを出していただき、過去何年分と比較できるデータがあれば理解を深めるのに助かります。

他に御意見等はないでしょうか。無いようであれば、本日の議事はすべて終了させていただきます。御協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

進行
事務局 伊藤裕之

議長の伊藤会長、どうもありがとうございました。委員の皆様、貴重な御意見を頂戴いたしまして、どうもありがとうございました。

最後になりますが、7月31日をもって委員をご退任される間庭委員、本図委員、栗野委員より一言ご挨拶を頂戴したいと思います。間庭委員よりよろしくお願いいたします。

間庭 洋 委員

長い間、本産業教育審議会の方へ商工会議所として携わらせていただきました。その間提言等にも関わらせていただきました。今後ともいろいろお話をさせていただければと思います。大変ありがとうございました。

本図愛実 委員

長い間お世話になり、勉強の機会をいただきましてありがとうございました。以前、宮農さんの仮設校舎のときも、視察をさせていただきました。そのときは、震災時を乗り切って、今は大変だけどこんなに頑張っているんだというようなお話を、委員が涙しながら伺いました。その後、高いところから、あの辺に新校舎建設を考えているというようなお話も伺いました。それがこんな風にきれいな校舎になったんだなと思いました。「今生徒達はこん

なに大変だけど、日本でも輝くような宮農にしていくんだ」という、当時の白石校長先生、山内課長の熱い思いを伺いましたが、それを今の先生方が受け継いで頑張っておられるんだなということを実感して感動しました。これからも、いろんなことが大変だと思いますが、宮農さんには県民の期待がかかっており、復興のシンボルだと思います。後藤校長先生の双肩にかかっているとしますのでぜひ頑張っていたきたいと思いました。本日はありがとうございました。そして、長い間ありがとうございました。

栗野琴絵 委員

本当にありがとうございました。私は短い期間だったんですけど、産業教育審議会の委員ということで参加させていただき、学校にいる人間として、いろいろな学校の取組を拝見しながら、場所は違えど、子供達が育っていく環境をしっかりと作りながら育てていきたい、人と人との出会いの中で子供達をしっかりと育てていきたいなど改めて思います。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくをお願いします。

進行
事務局 伊藤裕之

ありがとうございました。長きに渡り、本県の産業教育の発展に御尽力をいただき感謝申し上げます。今後も様々な形で御指導を頂戴できれば幸いに存じます。

(事務連絡)
事務局 吉田浩二

それでは事務局から連絡が4点ほどございます。1点目は『さんフェア宮城2018』の御案内です、今年は11月11日(日)10時から14時までに行われます。ぜひ審議委員の皆様にも足をお運びいただきたいと思えます。よろしくお願いたします。2点目です。本日の審議において、発言し切れなかったことやお気づきの点がございましたら、お配りしました意見用紙に御記入の上、平成30年7月20日(金)までに、FAXまたはメールでお送りいただきますようお願いいたします。3点目は、次回の審議会の御案内です。次回は、水産高校の学校視察を行い、そのあと『水産高校の進むべき方向性』について、また、その他の専門高校の取組、課題等について御意見を頂戴したいと考えております。10月中旬あたりの開催を予定しております。日時が決定しましたら御案内をしたいと思えますので、よろしくお願いたします。4点目になりますが、審議会委員の皆様で、口座振替用紙をお持ちの方は私まで御提出をお願いします。最後になります。本日は後藤校長先生の御好意で、農業高校さんの食堂を利用させていただけることになっております。食事を希望される委員の皆様は、案内係とともに食堂のほうに御移動願います。

農業高校出発の時間は、午後1時くらいを予定しておりますのでよろしくお願いたします。連絡は以上でございます。

5 閉会
進行
事務局 伊藤裕之

それでは予定の時間より若干早いのですが、閉会に移りたいと思えます。本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして、平成30年度第1回宮城県産業教育審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。